

バドミントン競技会実施要項

1. 競技規則

適用する競技規則は、(公財)日本バドミントン協会ルール並びに本大会申し合わせ事項に基づいて行う。

2. 招集

- (1) 招集は、競技場内で行い、競技進行により放送で招集するので係員の指示に従う。
- (2) 招集完了時間は、競技進行により放送で招集されてから10分後とする。

3. 入退場

競技場への入退場は、競技役員の誘導により行う。

4. 服装

運動に適した服装とする。また、ゼッケンは主催者側が交付するものを使用し、競技用服装の背部につける。

- ①身体障がい者は、白地に黒色字(肢体) 1～
緑色字(視覚) 1～
朱色字(聴覚) 1～
- ②知的障がい者は、白地に黄色字 1～
- ③精神障がい者は、白地に青色字 1～

5. 競技区分

- (1) 個人戦は、障がい別、男女別、年齢別とする。
- (2) 団体戦は、1チーム3名とし1名の補欠を置くことができる。(男女混成可)

6. 競技方法

- (1) 競技進行は、タイムテーブルのとおりとする。
- (2) 個人戦・団体戦ともにトーナメントとする。なお、団体戦は、参加チーム数によりリーグ戦に変更することもある。
- (3) 競技は、すべてシングルスとする。(身体はダブルスとする。)
- (4) 個人・団体戦とも、3ゲームズマッチの2ゲーム先取により勝敗を決める。ただし、団体戦は勝敗が決しても、3試合は必ず行う。また、1チーム3名の人数を満たさない場合は、試合は行うが、敗者(勝ち進めない)とする。なお、団体戦身体の一部においては、1ゲームマッチにより勝敗を決め、3試合行う。
- (5) 1セット17点のラリーポイント制とする。ただし、団体戦身体の一部においては、1セット21点のラリーポイント制とする。(すべてのセットデュースなし)
- (6) 団体戦(リーグ戦の場合)で同率のチームがあった場合は、勝敗、得失セット、得失点、ジャンケンの順で順位を決定する。
- (7) 個人競技終了後、団体競技を行う。(毎回オーダー用紙を提出)
- (8) 個人・団体競技とも、3位決定戦は行わない。
- (9) シャトルは、ナイロン製試合球(メイビス350号)を使用する。(身体は除く。)
- (10) サービス権とコート権は、ジャンケンで決める。チェンジエンドは第3セットの9点で行う。
- (11) サービスはサーバーの得点が0のとき、もしくは試合中に偶数のときは右側のサービスコートからサービスする。サーバーが奇数の得点のときは、左側のサービスコートからサービスする。
- (12) フォルト(失敗について)
 - ①サービスするとき、シャトルが違ったサービスコートに落ちたとき、ショートサービスラインに達しないとき、バックバウンダリーラインを越え、サイドラインの外に落ちた場合。
 - ②サーバーの両足がサービスするとき、定められているサービスコート内になく、もしくはレシーブするプレイヤーの両足がサービスされるまで対角線上のサービスコート内になく、
 - ③二段打ちしたとき。

④プレイ中、プレイヤーのラケット、身体、着衣がネットやそれを支えるものに触れたとき。

付) 原則として相手方に極度に不利にならない場合は、フォルトにならない。サービスは1本だけ同一コートで打てる。サービスしようとしてシャトルが床に落ちた場合(ラケットに触れずに)ワンモアとする。

シャトルがラケットのフレーム、シャフトまたはグリップで打たれたとき、あるいはシャトルの台と羽根が同じに打たれたときはフォルトとしない。

(13) 参加チーム数によって、あるいは競技の進行状況等から、協議により競技方法を変更することもある。

7. その他

(1) コーチーズボックスと選手の控室を指定する。

(2) 競技に関する不明な点は、競技本部に問い合わせること。